店頭から「こんにちは」
第139回

# 普段の努力と効き目が使用の基本にあり ご存じでしたか？ 薬局製剤

薬局製剤、専門的には薬局製造販売医薬品といいますが、ご存じでしょうか？
薬局薬剤師の特典といってもいい、おクスリのことなのですが――。

## 信頼関係が源にあり

薬局の薬剤師は、国が認めた400種類以上のおクスリを、薬局内の調剤室で製造して販売ができるのです。

成分分量が決められていて、乳鉢・乳棒・フラスコなどの薬局内にある器具で製造し、包装して販売を。内服の粉グスリ、漢方薬の煎じグスリ、軟膏・液体の外用薬などがあります。

薬局製剤は手間がかかるので、実際に製造・販売している薬局はあまりありません。ですから、みなさんには馴染みがないかもしれませんね。

薬局製剤は、『〇〇薬局鎮咳去痰剤13号』とか、『〇〇薬局インドメタシン外用液』とか、薬品名の前に必ず薬局名をつけるように定められています。

製薬会社が製造したものでなく、町の薬局の薬剤師が製造したおクスリなので、薬剤師をよほど信頼していないと、買いたくはないでしょう。

つまり、普段から信頼関係ができるよう、薬局側の日々の努力が必要で、もちろん効き目も、よくないとダメです。

## 立派で心ある薬剤師に

そもそも、薬局製剤を製造した薬剤師本人が、まず自分で効き目を確かめないと、自信を持ってお勧めはできません。

前出の、『〇〇薬局鎮咳去痰剤13号』では、なかなか治らなかったしつこい咳が、ピタッと止まったという例も。

ちなみに、薬剤師を目指している薬学生は、５年生になると、薬局や病院で実習することになっています。

▲学生実習風景

調剤技術や処方薬の説明など、実務実習受入薬局で体験していると思います。

ただ、薬局製剤については、書籍やＤＶＤなどで研修はしていても、実際には見たことがないというのです。そこで、薬局製剤を、実務実習で学生が学ぶ機会を作ってあげないといけません。

私どもでは、フルタイムの学生実習は受け入れていませんが、薬局製剤に特化した学生実習を依頼されると、快く引き受けるようにしています。

製造したおクスリが、「よく効いた」といってもらえたら、薬剤師の職能の素晴らしさを知ってもらえるのです。

実習が終わると、学生たちからは、感想文が届きます。例えば――。

「信頼がないと薬局で作ったおクスリは買ってもらえないということを聞いて、薬局がこれまでに築いてきた地域の人たちとの信頼関係や、薬局の地域の人たちの健康増進に貢献したいという思いを感じることができた」

私は、「しっかり勉強して、立派な薬剤師、そして心ある薬剤師になってください」と激励の言葉を贈りました。

宮川薬局（宮城県仙台市）代表
薬学博士・薬剤師
宮川季士（みやがわとしじ）先生

**プロフィール**

1976（昭和51）年、東北薬科大学（現・東北医科薬科大学）卒業。'78（同53）年、同大学大学院修士課程修了。'87（同62）年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。

「脱水症状にはご注意を」